

Vol. 12 2025

かつめま旬報

基調講演・パネルディスカッション

「かつめまの文化的景観を考えてみましょう」を開催！

令和7年2月11日（火・祝）、基調講演とパネルディスカッションを通して、「勝沼らしさ、勝沼にしかない文化的景観」の背景にある文化や歴史を、どのように守り、未来へ継承していくのかについて、地域住民とともに考えることを目的に開催しました。当日は、勝沼地域を中心に約90名の皆様が参加し、勝沼在住のパネリストたちの勝沼を想う熱い発言に会場からは拍手が起こり、大変盛り上がりしました。



パネリストたちの思い



中村 正樹氏

千年を超える甲州ブドウ栽培、勝沼から日本に広がった甲州式ブドウ棚による栽培システム。先人の努力と叡智、今に生きる人々により創り上げられた世界へ誇るブドウ畑の景観。

この景観を次世代にバトンタッチしていくため、農家の指導により子どもたちが果樹農業を学ぶ機会を設けることも大切だと思います。

私のスタンスとして、ただ単にお客さんにワインを紹介するのではなく、地域の面白い人、景色を紹介し来訪者に感動していただきたい。

首都圏の外資系のホテルで高級な甲州ワインが飲まれている。子どもたちが社会科見学でホテルを訪れ、甲州ワインが飲まれているところを見るだけでも勝沼に誇りが持てるようになるのではないのでしょうか。



新田 正明氏

地元の皆さんの地域愛を強く感じます。「明日への伝言」として、地域の高齢者から「道祖神」「お地蔵さん」「小字名」などのお話を聞きながら、勝沼のフットパスコースを14設定し、ガイドブックを作成いたしました。

文化的景観を守るには、いろいろな方に知ってもらうのも大切だと思います。



高安 一氏

10年前に移住し農業を行っておりますが、地域の皆さんが淡々と農作業を行っており、この日々の作業が素晴らしい景観につながっていると思います。

この大好きな勝沼を継承していくために、婚活イベントや子育てママの応援事業、子ども達の将来を考える場づくりを皆さんと行っており、一層盛り上げていきたい。



山口 祐子氏

裏面へ➡



参加者の声



※来場者アンケートから抜粋

文化的景観とは何なのか、その価値について知ることができた。
私も昨年、勝沼に移住した身として勝沼地域の今後の姿、何を残すか、**どのような変化をして、受け入れるのか考える**機会となった。自分でも地域活動にも積極的に参加して行きたいと思いました。
～30代 祝地区

勝沼のエースたちの熱い思いが聞けて、こちらも**胸が熱く**なりました。
60代 勝沼地区



良い点ばかりの話でマイナスの所の話が出てこないという点は、少し不満でした。現在の勝沼を考えると**マイナス面を探して、それに対する解決策**をしたらもう少し進歩があるのではないかと思います。
70代 祝地区

いつも勝沼ぶどう郷駅からの景色に心洗われています。**この景色を子ども達にも引き継いでいきたいので**、この文化的景観の制度にはとても興味があります。
50代 勝沼地区



■基調講演とアドバイザーを務めていただいた文化庁の市原調査官のコメント

パネラー、聴講者が心より地域のことを考えており、他の地域では見られない熱い思いに対し、改めて、景観を守っていくには、地域のつながりが何より大事であるなど思い知らされました。

皆さんが心配しておりました文化的景観の選定による営農への制約については、既存の農地法による厳しい制約の中、運営されておりますので、これ以上の制約がかかることはありません。

是非、勝沼の皆さんのこの熱い思いが継承されることを願います。



■基調講演とコーディネーターを務めていただいた山梨大学の菊地准教授のコメント

全国には、有名なブドウ栽培地域が点在していますが、勝沼に広がる一面のブドウ畑はどこにもありません。地元の人達から見る当たり前の景観が、地域の特徴を物語っています。

ブドウ栽培の「歴史」「文化」から受け継がれてきた景観を、守り・育むためには、地域の人々が大小の変化に気づき・意識し・手段を考えるツールとして「文化的景観」を利用していただきたい。



今後も、地域の皆様には「勝沼らしさ、勝沼にしかない文化的景観」について、考えていただくために「NPO 法人勝沼文化研究所」と共にワークショップやシンポジウムなどを開催して参りたいと思います。

